



みどりの風

平成24年9月3日発行

校報 第489号

〔みどりの風 第32号〕

練馬区立関町北小学校

心に平和のとりでを築く

校長 大野 泰弘

今年の夏は気温の面での酷暑が続いただけでなく、ロンドンオリンピックにおける日本人選手の活躍をはじめ、各種のスポーツにおける多くの選手の奮闘ぶりなどに、さらに熱い応援をする毎日となりました。4年間の思いを凝縮させてオリンピックの場でメダルをとった選手も、残念ながら目標には届かなかった選手も、きっとそれぞれの人生の1ページを飾る思い出深い夏になったことでしょう。彼らの発する言葉に、目標を掲げて生きている人の情熱、誠意、謙虚さ、連帯感等々、様々な一面を感じ取ることができ、オリンピックが「平和の祭典」であってこそその感動がたくさん得られました。

ところで、第6学年の国語の教科書に「平和のとりでを築く」〔筆者：大牟田 稔氏〕という文章が掲載されています。その中には、「1992年にユネスコの世界遺産に指定された『原爆ドーム』は、急性白血病でなくなった一少女の思いだけでなく、多くのわが国や世界の人々の平和を求める気持ちを伝えており、核兵器の不必要であることを警告する記念碑である。」という一節があります。さらに、「国連のユネスコ憲章に『戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない』とあるように、原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのである。」とも記されています。

広島市に原子爆弾が投下された日は、よく晴れた夏空だったそうです。今年の「原爆の日」は、ロンドンオリンピックの熱気の中で迎えられましたが、同じ夏空でも、見上げれば「平和」を感じることもできる夏空を大切にしたいものです。

人はだれしも、心の安定や社会の平和をよりどころとして真の幸福を求めるものですが、現実には、心に矛盾を抱え、それと争っている自分の姿を見出すこともあるのではないのでしょうか。日常生活の中の様々な葛藤や争いも、もとを正せば、自己中心的な思いや心の弱さなどから始まっていることが多いと言われます。「心に平和」を築くためには、まず、相手に心を開き、その思いや願いを穏やかに受け止める冷静さ、沈着さが求められます。一人一人の「心の平和」があって初めて、形状としての平和がもたらされるのではないかと思います。

夏休みの前から、多くの人の心を痛めていることの一つに「いじめ問題」があります。大きなことが起こってから何らかの対応をする、そういう後手に回るのではなく、日々心を落ち着け、穏やかに自己を振り返り、自らの内面を豊かにしながら「心の平和」をもたらし、そういう地道な取り組みが必要であろうと思います。「心に平和のとりでを築く」ことが、いじめ防止にもつながることを願います。

また、様々な苦難を乗り越えてこられた多くの先人のご苦労のお陰により今日のわが国の繁栄があることを思うと、感謝と敬意の念を抱くだけでなく、あらためて一人一人が日々の心の葛藤に打ち勝ち、家庭・社会・国家・世界における平和の実現に向けて「心に平和のとりでを築く」大切さを感じます。

朝夕には耳を澄ませば、秋の虫の声を聞くことができる時期になりました。暑かった夏もやがて過ぎ去り、柔らかな陽ざしのもと、学習やスポーツなど、何をするにも適した季節がやってきます。本校の子どもたち一人一人が、心にいつも澄み切った青空を描き、自らの心の穏やかさや人への優しさを大切にしながら充実した日々を過ごせるようにしたいと考えております。今後とも皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。